

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	岡山県立大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オカヤマケンリツダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F133210109510
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	岡山県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	公立大学
	科目名	エンジニアリング演習
	学部・研究科等名	情報工学部
	担当教職員名・役職	伊藤信之：教授、有本和民：教授、佐藤洋一郎：教授、大久保賢祐：教授、穂苅真樹：教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	26
	受入企業等数	15
	受入企業等名	(有)アクシス、(株)アステア、内山工業(株)、オーエム産業(株)、興南設計(株)、山陽電研(株)、(株)システムズナカシマ、(株)システムタイズ、セリオ(株)、タカヤ(株)、(株)ハーバー・ソフトウェア、萩原工業(株)、ピープルソフトウェア(株)、(株)ベネッセインフォシエル、三乗工業(株)
	インターンシップの分類	1.長期（概ね1か月以上）インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	企業での職場体験活動を通して、仕事や組織の仕組み、仕事の流れ、職場における人間関係などの理解を深めることを目的としています。各受入企業の主要業務において、社員の指導の下に作業補助や模擬プロジェクトの製品開発等を行っています。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	情報工学部3年生の専門科目（選択）として、夏期休業期間中に17日間のインターンシップを含めた20日間の「エンジニアリング演習」を実施している。

要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	担当教職員等による事前の説明会、マナー等講習会を実施。また、学生自ら事前訪問を行い、受入企業と演習スケジュールの調整を行い行動計画等の策定を行っている。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	週報（企業担当者確認済み）、事後レポートおよびアンケートを演習終了後に提出。また、企業担当者を招いての報告会を実施している。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	担当教職員等がインターンシップ中に企業訪問し、企業担当者並びに演習生と面談を行い、状況確認を行っている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
4-3.上記回答内容に関する詳細	学生から事後レポートやアンケートをインターンシップ実施後に提出させ、企業からは学生の評価とアンケートを提出いただき、インターンシップ実施による学生の成長度合いを評価しフィードバックを行っている	
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している

要素⑤		2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	夏期休業中の8月中旬から9月下旬の間の17日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前2日+演習17日+事後1日
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	全20日（事前2日+演習17日+事後1日） 演習の開始時期は受入れ企業と相談。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	事前にインターンシップの意義や目的を受入企業にご理解いただいた上で、演習プログラムを準備いただき、学生の事前訪問時に具体的な計画を策定している。 また、演習期間中も受入企業担当者と担当教職員等との連絡を密にして演習進行時の課題解決に努めている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.oka-pu.ac.jp/syllabus/2021/0221/0221_21270701_ja_JP.html
問い合わせ先	大学等名	岡山県立大学
	担当部署名	地域連携・研究推進課 連携推進班
	担当者役職名	連携推進班長
	担当者氏名	片岡 始美
	電話番号	0866-94-9104
	メールアドレス	harumi_kataoka@ad.oka-pu.ac.jp